

# 高津川流域の「群マネ」

～あらゆる群を束ね、持続可能な社会の礎を築く～

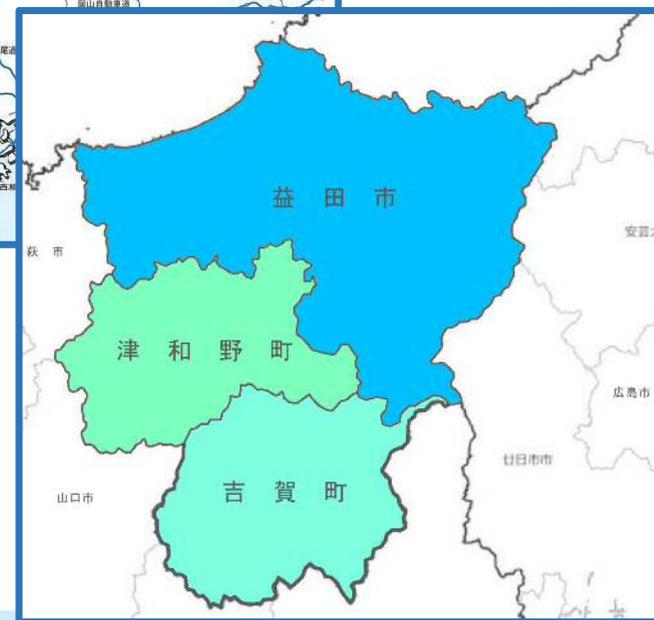
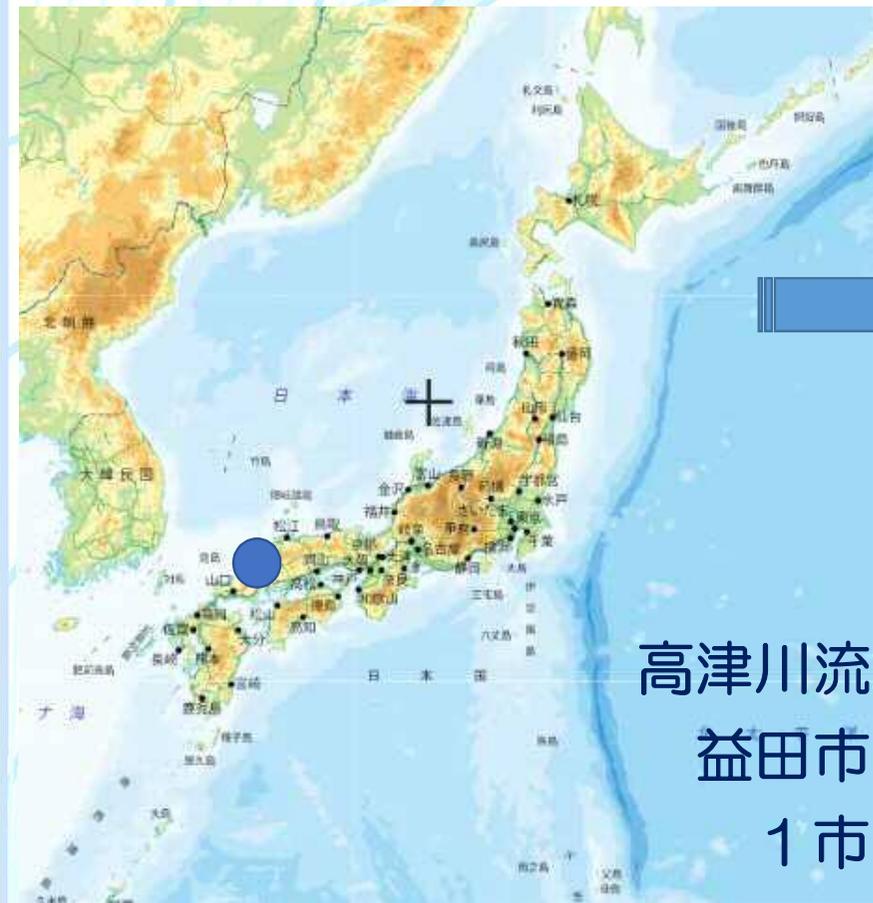
益田市 建設部 土木課



1. はじめに 益田市、高津川流域とは
2. 地域の将来像
3. これまでの取組
4. 高津川流域の「群マネ」始動！
5. 今後の展望



# 1. 益田市、高津川流域とは



高津川流域とは  
益田市・津和野町・吉賀町  
1市2町で構成



# 1. 益田市、高津川流域とは

(R6年6月末現在)

■ 圏域人口 55,341人

内訳

益田市 43,286人

津和野町 6,459人

吉賀町 5,596人

■ 面積 1,376.6km<sup>2</sup>

内訳

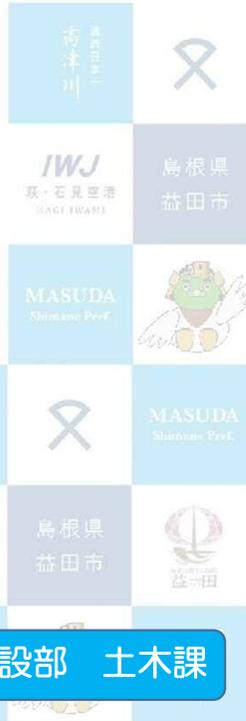
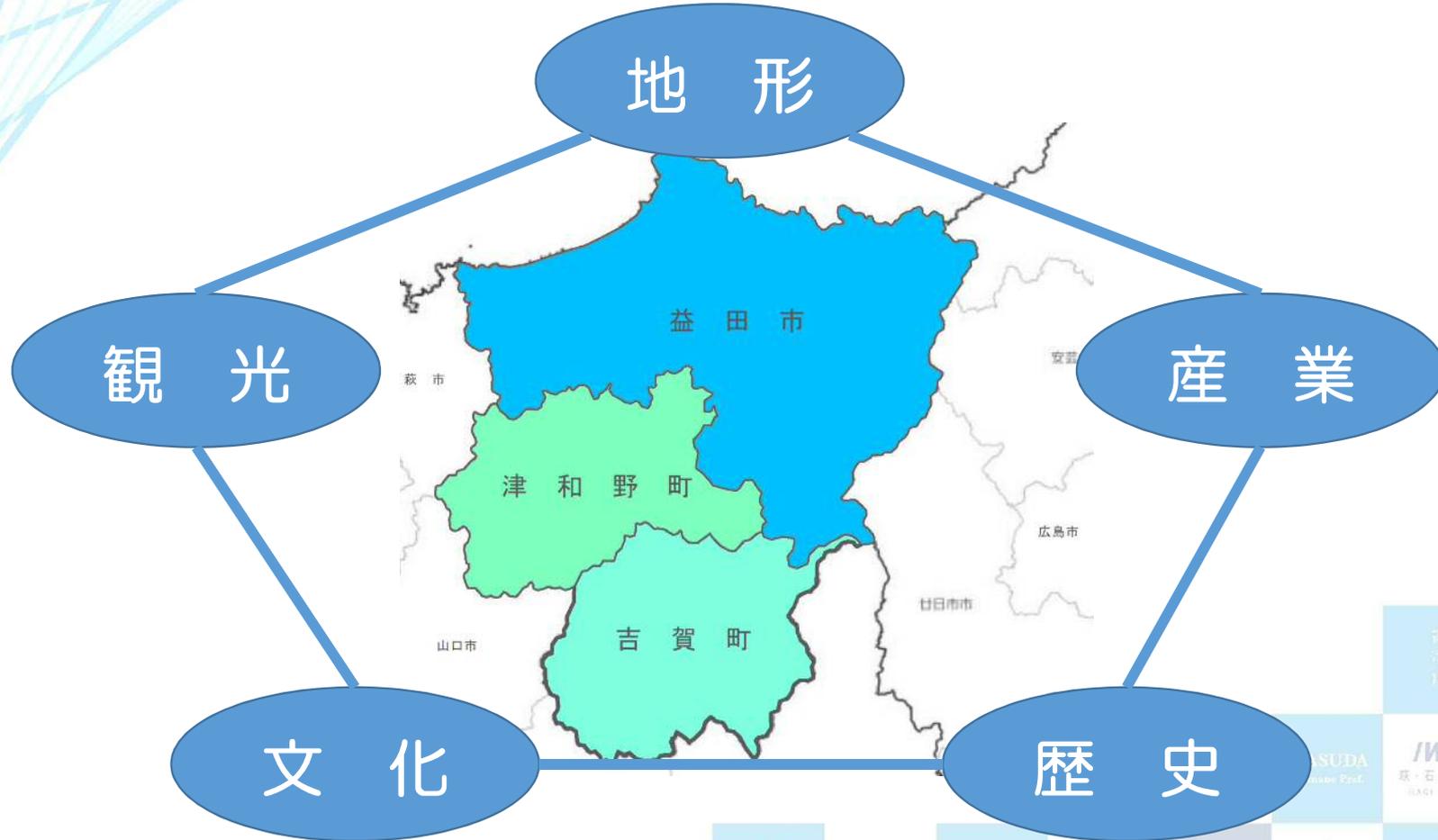
益田市 733.2 km<sup>2</sup>

津和野町 307.1 km<sup>2</sup>

吉賀町 336.3 km<sup>2</sup>



# 益田地区広域振興事業計画



## 2. 地域の将来像

持続可能な地域社会を確立し、  
地域住民が安全・安心かつ快適に暮らし、  
誰もが住み続けたいと実感できる  
地域づくりを目指します。

持続可能な  
地域社会

安全・安心  
快適な暮らし

住み続けたい  
実感できる地域

well-being

一人一人の多様な幸せな社会

### 3. これまでの取組み

○ 笹子トンネル天井板崩落事故 [2012.12.2]

○ 2013年を「社会資本メンテナンス元年」に位置付け

○ 「社会資本の維持管理・更新について当面講ずべき措置」策定 [2013.3.21]

○ 「インフラ長寿命化基本計画」策定 [2013.11.29]

○ 「国土交通省インフラ長寿命化計画(行動計画)」策定  
＜計画期間：H26～H32年度＞ [2014.5.21]

○ 「第2次国土交通省インフラ長寿命化計画(行動計画)」策定  
＜計画期間：R3～R7年度＞ [2022.6.18]

全国的に  
メンテナンスに  
舵を切る！

# 3. これまでの取組み

## 全般的な課題

○ 高度経済成長期以降に整備し、老朽化した社会資本の割合が加速度的に上昇

○ 技術系職員の減少、不足

○ 土木費の減少

## これまでの主な取組

(1) メンテナンスサイクルの確立

(2) 施設の集約・再編等

(3) 多様な契約方法の導入

(4) 技術の継承・育成

(5) 新技術の活用

(6) データの活用

(7) 国民の理解と協力

・予防保全の効果の推計  
・5か年加速化対策による予算措置 等

・集約・再編によるストックの適正化  
・ガイドライン・マニュアルの整備 等

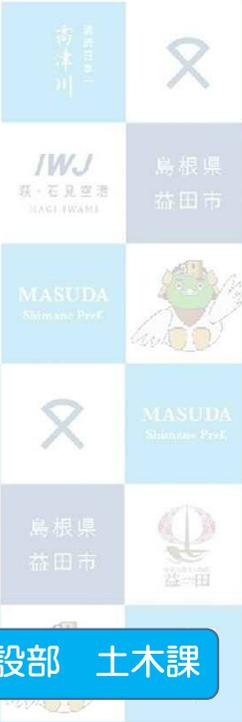
・地域維持型契約方式  
・包括的民間委託などの民間活用 等

・資格制度の構築  
・研修による人材育成 等

・新技術活用促進に向けた手引き  
・新技術導入に要する予算を重点配分 等

・各分野でのデータベース整備  
・国土交通データプラットフォーム 等

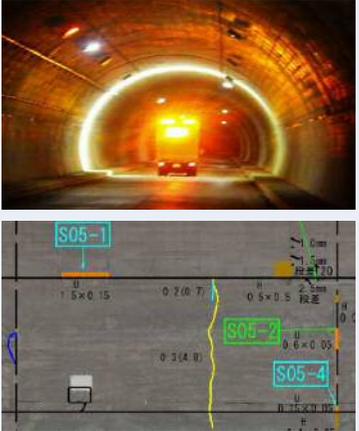
・インフラメンテナンス大賞  
・インフラメンテナンス国民会議 等



### 3. これまでの取組み

- 新技術の取組み
- 一括発注の取組み
- 撤去、集約の取組み



UAV測量・点検	レーザートンネル点検	遠隔臨場	水位計監視システム	路面性状調査
直営	業務委託	直営	工事	実証試験
				
<p>【従前】 業務委託にて点検車を用いて実施</p> <p>【導入後】 UAVを用いて直営にて点検</p>	<p>【従前】 近接目視にて、点検車に乗り人力で打診。</p> <p>【導入後】 連続写真とレーザー測定により観測し、AI解析により図面化を自動で実施</p>	<p>【従前】 写真にて現場確認を実施</p> <p>【導入後】 ドローンの映像をリアルタイムで確認（ZOOM）</p>	<p>【従前】 現地確認にて、ポンプ稼働やバルーンの作業状況を確認</p> <p>【導入後】 システムにてリアルタイム監視・メールでの異常通知</p>	<p>【従前】 業務委託にて専用車両を用いて実施</p> <p>【導入後】 調査データを基に、直営での修繕計画を作成</p>
<p>【効果】 直営点検によるコスト抑制 道路規制期間の短縮による住民の負担軽減（3,000千円コスト削減）</p>	<p>【効果】 点検作業の効率化によるコスト抑制 道路規制期間の短縮による住民の負担軽減（4,500千円コスト削減）</p>	<p>【効果】 安全性の向上はもとより、現場状況の正確な報告が可能となり、災害査定が円滑に行われた。</p>	<p>【効果】 監視・通知機能により、より迅速な対応ができるようになった。</p>	<p>【効果】 現在、UI（ユーザー画面）も仕上がり、データ評価の検証中。</p>



島根県  
益田市



MASUDA  
Shimane Pref.



島根県  
益田市

## 熱赤外線 空洞調査

## ソーラー型 ネットワーク カメラシステム

## 電子黒板

## LiDAR測量

## 国民会議 実証試験

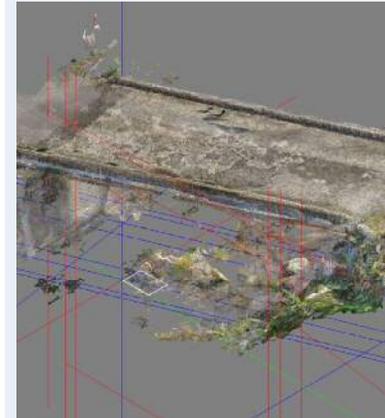
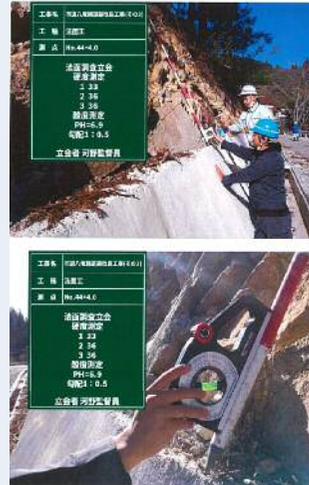
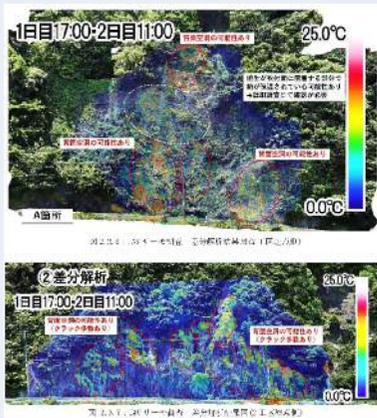
業務委託

工事

工事

直営

実証試験



【従前】  
コアを抜いて空洞調査を実施  
【導入後】  
熱赤外線の温度差において空洞を推定

【従前】  
実際に現地確認を実施  
【導入後】  
遠隔にて、現場の天候状況、現場状況、作業状況をスマホやタブレットにて確認

【従前】  
黒板を用いて写真に記録を実施  
【導入後】  
電子黒板にて撮影機材と連動し記録することができる。

【従前】  
補修箇所抽出に、コンベックス等にて計測していた。  
【導入後】  
3Dモデル上にて補修箇所の数量を確認でき、発注図面の作成ができる。

【従前】  
橋梁点検車にて点検を実施し調書を作成していた。  
【導入後】  
UAVとAI解析にて点検及び調書作成までが自動化される。

【効果】  
高所作業が無くなり安全性の向上、広範囲の推定が容易にできる。(1,000千円コスト削減)

【効果】  
現場に行かなくても現地確認できることから、休日のパトロール等効率化が図れる。

【効果】  
工事業者の内業の軽減が図れる。また、現地での作業人数を減らすことができる。

【効果】  
補修設計を業務委託することなく、直営設計とした。発注準備の効率化が図れた。  
(3,000千円のコスト削減)

【効果】  
UAVにて生成された点群データの補正等に時間を要していることから、今後の課題として現在、検証中。



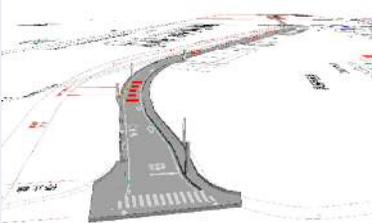
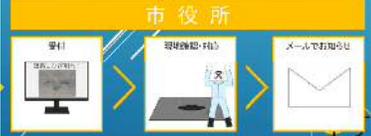
鳥根県  
益田市



MASUDA  
Shikano Pre.



鳥根川

3Dレーザー測量	3Dレーザー測量	3D走行 シミュレーション	GIS 庁内型・公開型	市民投稿システム
業務委託	業務委託	直営	業務委託	業務委託
		 	 	  
<p>【従前】 トランシット等の測量機器にて実施</p> <p>【導入後】 ドローンと赤外線レーザを用いて実施</p>	<p>【従前】 2D図面にて補修箇所を図示</p> <p>【導入後】 3Dモデルにて補修箇所を明示</p>	<p>【従前】 2D図面（平面図・縦断図・横断図）にて作図</p> <p>【導入後】 3Dモデルにて地元・関係機関協議資料を作成</p>	<p>【従前】 紙媒体を主にした台帳にて管理してきた。</p> <p>【導入後】 一部の調書について、電子化と場所について電子地図にて表示</p>	<p>【従前】 電話・対面にて要望を受け付け、対応状況を後日連絡</p> <p>【導入後】 遠隔にて、現場の天候状況、現場状況、作業状況をスマホやタブレットにて確認</p>
<p>【効果】 斜面上での作業がなく、安全性の向上が図れた。また、現場作業時間の短縮に繋がった。</p>	<p>【効果】 複雑な構造において、補修箇所の確認が容易となり、作業効率化が図れた。また、地元説明等の資料が向上した。</p>	<p>【効果】 走行シミュレーションもできることから、説明資料がより具現化でき地元等の理解度が増し手戻り解消となった。</p>	<p>【効果】 内部作業の効率化はもとより、市民への情報提供をすることによりサービスの向上が図れる。</p>	<p>【効果】 位置図と写真が連動することから行き違いが軽減されよりサービスが向上する。</p>



島根県  
益田市



MASUDA  
Shizue no Park

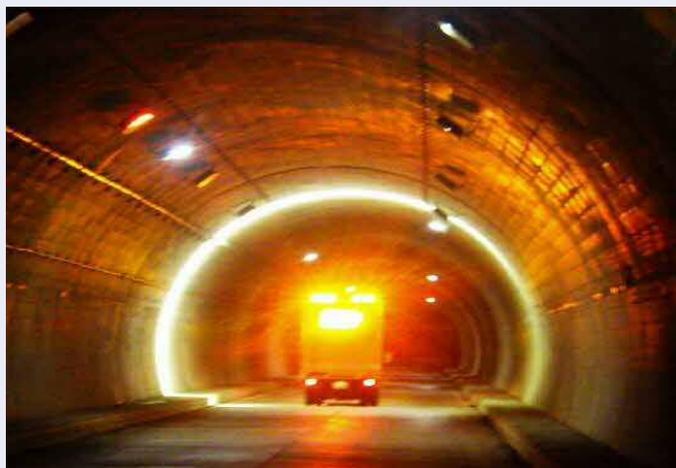


益田市

## 3. これまでの取組み

### 【市町連携】三坂八郎トンネル点検

益田市と津和野町



益田市と津和野町の境にある林道トンネルにおいて、協定を締結し、点検業務委託を益田市にて一括発注を実施。

#### 【効果】

1 業務あたりのトンネル延長が伸びることから新技術の導入が可能となった。

## 3. これまでの取組み

### 【町町連携】唐人屋トンネル修繕設計工事

吉賀町と津和野町



吉賀町と津和野町の境にある市道トンネルにおいて、協定を締結し、点検・設計・修繕工事の一連の事業を吉賀町にて一括発注を実施。

#### 【効果】

事業全体の事務処理を軽減させ、少人数の職員での対応を可能とした。発注者側の省力化に繋がっており、技術職員の不足を補った。

# 3. これまでの取組み 「技術力」の群を束ねる

## 技術者連携

益田市・津和野町・吉賀町  
で勉強会を実施

益田市：UAV橋梁点検  
(3Dモデル作成)

津和野町：既設橋梁の取り壊し  
(ダイヤモンドカッター)

吉賀町：小規模吊り橋の補修

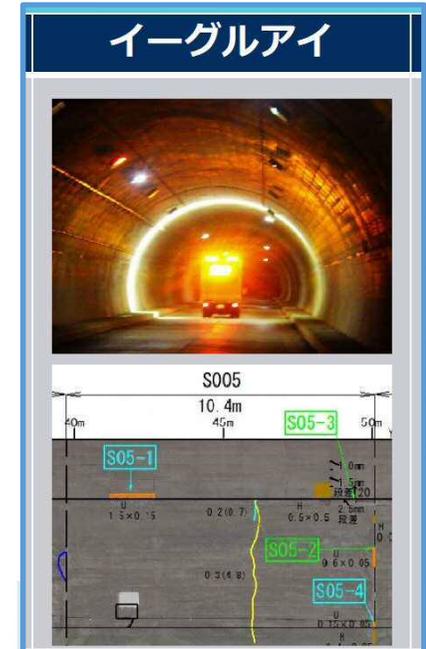
R6.8.29 栃木橋現場見学会



R6.2.1 インフラメンテナンス国民会議 実証試験



益田市・津和野町にて  
一括発注したトンネル  
点検にて新技術を導入



### 3. これまでの取組み 撤去・集約

- 平成30年7月 ~ 令和7年11月  
IV判定になった平川橋撤去に関して、関係者の合意形成を図り、撤去について承諾を得る
- 令和7年11月30日  
撤去開始に先立ち、現地にて地元及び工事関係者参集のもと、平川橋解体清祓（きよはらえ）式を実施
- 令和7年12月  
本格的に平川橋の解体撤去工事に着手



### 3. これまでの取組み

しかし、基礎自治体では、財源不足・人材不足

これから、緊迫する財源の中、危機的な状況

「新技術の導入」「集約・撤去」等に取り組むも

「依然として予防保全ではなく、

事後保全型のメンテナンスとなっている！」

### 3. これまでの取組み それでも問題があり、不安でしかない！

技術の継承をする組織体制の構築が困難である。

問題

地元地域に建設コンサルタントがない。土木系職員がない。

津和野町

危機感

吉賀町

発注者・受注者とも人材確保が難しく今後のインフラを継続的に維持していくことに不安

益田市

管理施設が少なく、スケールメリットが小さく費用対効果が見込めない。

### 3. これまでの取組み

- 基礎自治体の多くが財政健全化に取り組んでおり、  
**予防保全へ転換する予算が組めない**
- 新技術の導入を検討するも、管理施設数が少なく  
**費用対効果が見込めない**
- 専門知識を有する土木職員を継続的に配置できるか不安
- 地元企業がなく、準県内企業が継続的に受注して  
くれるか**不安**
- 発注者も受注者も人材確保が継続的にできるか**不安**

### 3. これまでの取組み

新技術の活用  
コスト抑制するには

人材・財源を確保するには

管理数を増やして  
スケールメリット増

撤去、集約し管理数を  
減らす

相反することを  
しなければならない！

# 4. 高津川流域の「群マネ」始動！

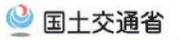
## インフラメンテナンス第2フェーズに向けた提言

(社整審・交整審技術分科会 技術部会)

『総力戦で取り組むべき次世代の「地域インフラ群再生戦略マネジメント」～インフラメンテナンス第2フェーズへ～』

[2022.12.2]

第1弾『広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー』を開催 (5/19~6/28)



- 「地域インフラ群再生戦略マネジメント」および包括的民間委託導入の推進に向け、全国9ブロックで地方公共団体等職員向け「広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー」を開催。
- 地域インフラ群の考え方や包括的民間委託の導入の手引きを説明するとともに、先進的に包括的民間委託等を導入している地方公共団体による事例紹介等を行い、地方公共団体職員の理解を促進。

### プログラム (例)

- 第一部**
- (1) 社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会 技術部会 提言（地域インフラ群再生戦略マネジメント）について説明（説明：国土交通省）
  - (2) 包括的民間委託導入の手引きについて説明（説明：国土交通省）
  - (3) 地方公共団体における包括的民間委託などの先進事例紹介（説明：地方公共団体）
- 第二部**
- (4) 質疑応答

### 各ブロック開催の様子

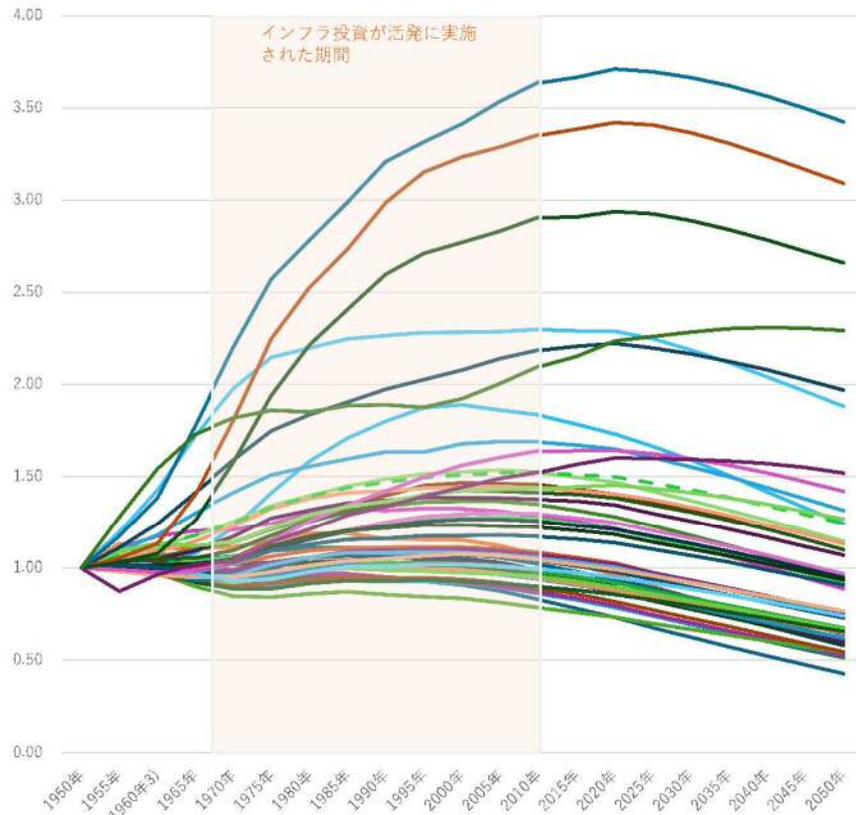


ブロック	セミナー名称	開催場所	開催日時	記者発表	参加人数 (H面・WEB)	先進事例紹介自治体	セミナー資料
北海道	北海道ブロック広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー	札幌南1合同庁舎10F第3号会議室	6月20日 (水) 10:30~	<a href="https://www.hokkaido.go.jp/press/2022/06/20/20220620_01.html">https://www.hokkaido.go.jp/press/2022/06/20/20220620_01.html</a>	約60名	・北海道旭川市 ・北海道足寄市	<a href="https://www.hokkaido.go.jp/press/2022/06/20/20220620_01.html">https://www.hokkaido.go.jp/press/2022/06/20/20220620_01.html</a>
東北	東北ブロック広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー	東北地方整備局13F水災対策センター	6月29日 (月) 14:30~	<a href="https://www.pref.tokai.go.jp/press/2022/06/29/20220629_1.html">https://www.pref.tokai.go.jp/press/2022/06/29/20220629_1.html</a>	約100名	・福島県 ・秋田県大館市	<a href="https://www.pref.tokai.go.jp/press/2022/06/29/20220629_1.html">https://www.pref.tokai.go.jp/press/2022/06/29/20220629_1.html</a>
関東	関東ブロック広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー	関東地方整備局5F会議室	6月8日 (木) 13:30~	<a href="http://www.kanto.go.jp/press/2022/06/08/20220608_01.html">http://www.kanto.go.jp/press/2022/06/08/20220608_01.html</a>	約140名	・神奈川県小田原市 ・東京都多摩市	<a href="http://www.kanto.go.jp/press/2022/06/08/20220608_01.html">http://www.kanto.go.jp/press/2022/06/08/20220608_01.html</a>
北陸	北陸ブロック広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー	北陸地方整備局4F共用会議室	5月26日 (木) 14:00~	<a href="https://www.hokuriku.go.jp/press/2022/05/26/20220526_01.html">https://www.hokuriku.go.jp/press/2022/05/26/20220526_01.html</a>	約60名	・石川県かほく市 ・新潟県三条市	<a href="https://www.hokuriku.go.jp/press/2022/05/26/20220526_01.html">https://www.hokuriku.go.jp/press/2022/05/26/20220526_01.html</a>
中部	中部ブロック広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー	中部地方整備局3F共用大会議室	6月13日 (水) 14:00~	<a href="https://www.chubu.go.jp/press/2022/06/13/20220613_01.html">https://www.chubu.go.jp/press/2022/06/13/20220613_01.html</a>	約80名	・愛知県豊田市 ・静岡県	<a href="https://www.chubu.go.jp/press/2022/06/13/20220613_01.html">https://www.chubu.go.jp/press/2022/06/13/20220613_01.html</a>
近畿	近畿ブロック広域的・戦略的インフラメンテナンスセミナー	花博記念ホール	5月19日 (金) 13:00~	<a href="https://www.kansai.go.jp/press/2022/05/19/20220519_01.html">https://www.kansai.go.jp/press/2022/05/19/20220519_01.html</a>	約150名	・奈良県	<a href="https://www.kansai.go.jp/press/2022/05/19/20220519_01.html">https://www.kansai.go.jp/press/2022/05/19/20220519_01.html</a>
中国	中国ブロック広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー	中国地方整備局第3号1、2会議室	6月21日 (水) 13:30~	<a href="https://www.chugoku.go.jp/press/2022/06/21/20220621_01.html">https://www.chugoku.go.jp/press/2022/06/21/20220621_01.html</a>	約60名	・山口県周南市	<a href="https://www.chugoku.go.jp/press/2022/06/21/20220621_01.html">https://www.chugoku.go.jp/press/2022/06/21/20220621_01.html</a>
四国	四国ブロック広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー	四国地方整備局パナソニックホール1階101大会議室	6月16日 (金) 14:00~	<a href="https://www.shikoku.go.jp/press/news/2022/06/16/20220616.html">https://www.shikoku.go.jp/press/news/2022/06/16/20220616.html</a>	約60名	・高知県高松市	<a href="https://www.shikoku.go.jp/press/news/2022/06/16/20220616.html">https://www.shikoku.go.jp/press/news/2022/06/16/20220616.html</a>
九州・沖縄	九州・沖縄ブロック広域的・戦略的インフラマネジメントセミナー	九州地方整備局2F第5、6会議室	6月28日 (水) 15:30~	<a href="https://www.kyushu.go.jp/press/2022/06/28/20220628_01.html">https://www.kyushu.go.jp/press/2022/06/28/20220628_01.html</a>	約100名	・熊本県玉名市 ・沖縄県	<a href="https://www.kyushu.go.jp/press/2022/06/28/20220628_01.html">https://www.kyushu.go.jp/press/2022/06/28/20220628_01.html</a>

※近畿ブロックは「インフラメンテナンス民間委託推進実証プログラム2021」内で開催

# 4. 高津川流域の「群マネ」始動！

1950年から2050年の100年間の人口推移（1950年＝1.00）



グループ①：増加  
2050年段階で1950年比2倍以上の人口を維持している県。  
特に首都圏（千葉・埼玉・神奈川）は2.5倍以上と大幅増加。ただし、東京以外は2020年頃にピークアウトしており、減少傾向が続く。  
⇒人口の大幅増に対応してインフラも増加しており、今後の維持管理は量・コストともに課題

グループ②：維持  
2050年段階で1950年と同程度の人口を維持している県。（0.9倍から1.5倍）  
高度成長期に人口増加傾向にあったが、2000年頃には減少が始まっている  
⇒人口増加時期にはインフラ投資の効果があった可能性があるが、2000年以降はストックの負担が重くなっている

グループ③：減少  
1950年以降、ほぼ一貫して人口減少傾向の県。  
2050年段階では1950年比で△30%以上減少しており、最大は秋田県の△56%。  
⇒人口あたりのインフラ投資の恩恵は高かったが人口減少速度が速く、2000年以降は負担になっている。

出所：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」（2023年改訂版）より大崎総合研究所が作成

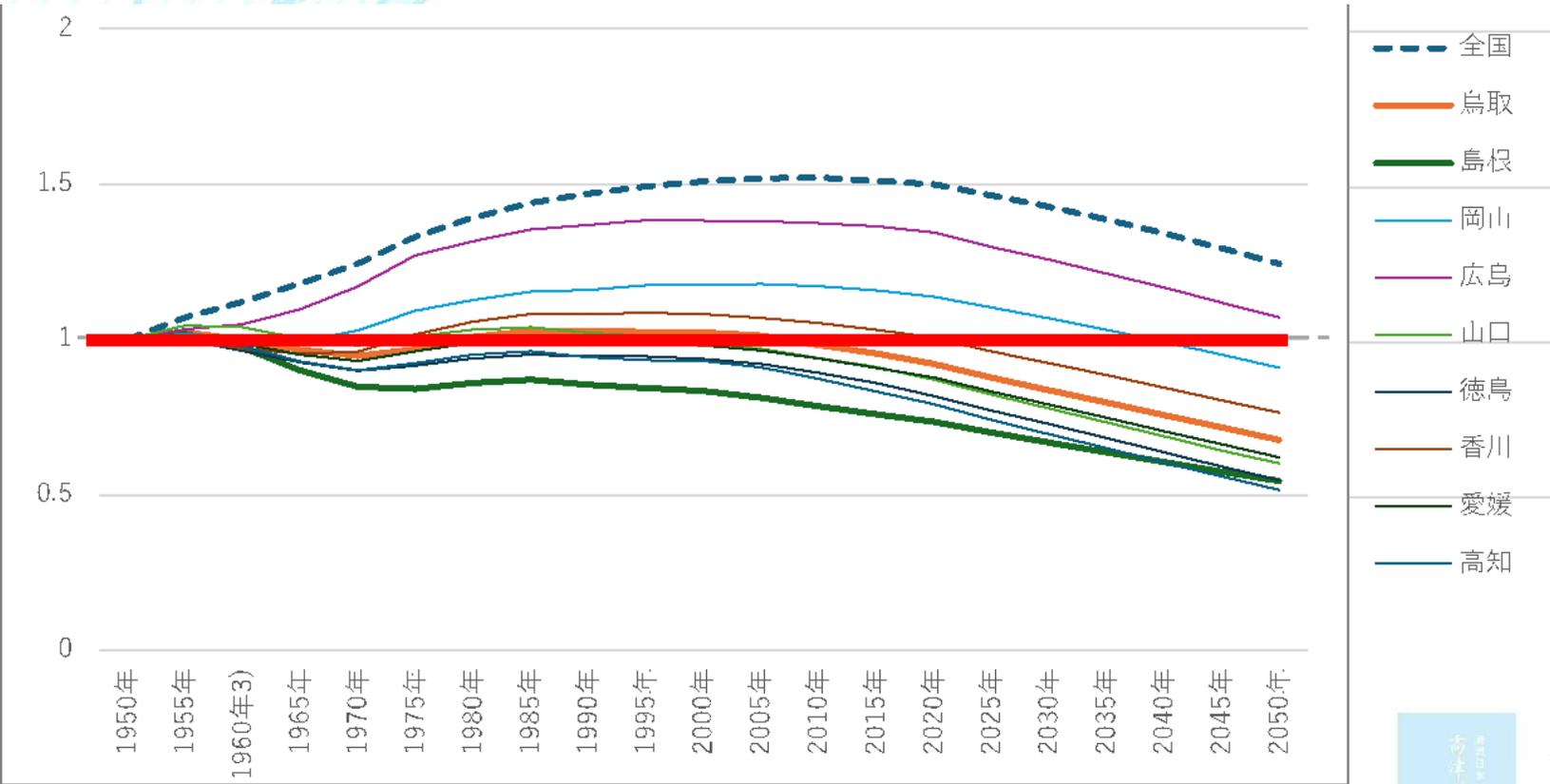
高度経済成長

首都圏では人口増  
あわせて

インフラも増

2000年以降  
人口が減少

# 4. 高津川流域の「群マネ」始動！



中国地方は、  
広島県・岡山県  
のみ人口増加

島根は、  
高度経済成長期  
にも人口減少  
首都圏への流出

- 全国
- 鳥取
- 島根
- 岡山
- 広島
- 山口
- 徳島
- 香川
- 愛媛
- 高知



## 4. 高津川流域の「群マネ」始動！

豊かな国民生活を送る上でインフラメンテナンスは  
国民一人ひとりにとって重要なもの。

よって、インフラメンテナンスに社会全体で取り組む

パラダイムの転換が必要

そこで、

広域的・戦略的

インフラマネジメント

## 4. 高津川流域の「群マネ」始動！

### 具体的な課題解決方法

個別施設のメンテナンスだけでなく、発展させた考え方のもと、インフラ施設の必要な機能・性能を維持する方法を確立する。

発展させた考え方

## 4. 高津川流域の「群マネ」始動！

群マネ

新技術の  
活用

デジタルデータ  
の利活用

国民参加  
パートナーシップ

施設の集約  
・再編等

多様な契約方法  
の導入

など

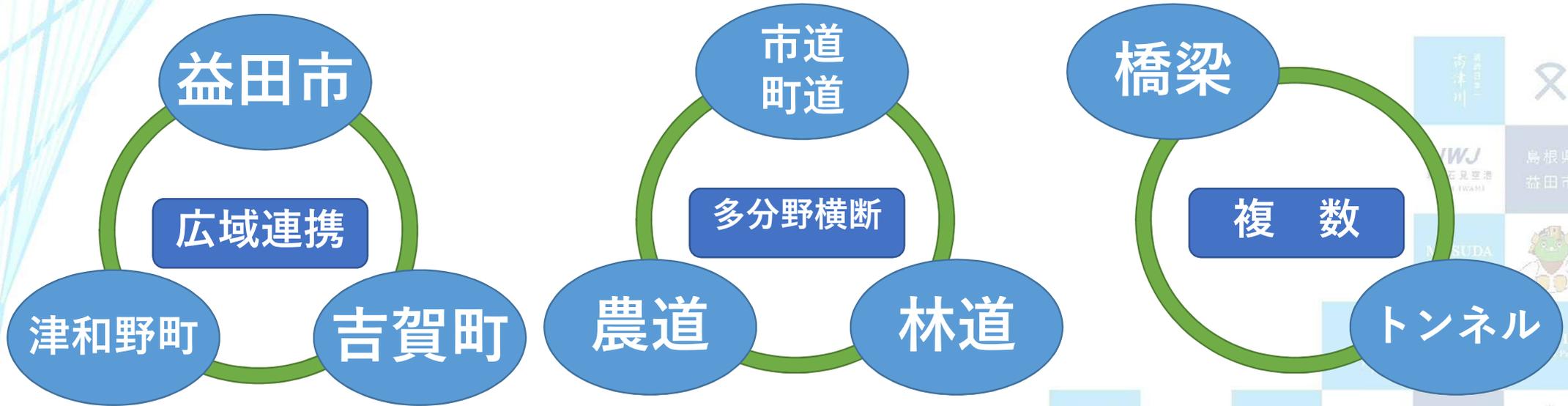
### 地域インフラ群再生戦略マネジメント

複数・広域・多分野のインフラを「群」として捉え、総合的かつ多角的な視点から戦略的に地域のインフラをマネジメントする取組み

26

# 4. 高津川流域の「群マネ」始動！ 地域インフラ群再生戦略マネジメント

広域連携・多分野横断・複数での包括的民間委託



# 4. これからのインフラメンテナンス 「群マネ」

## 「技術力」の群を束ねる

技術者連携

益田地区測量設計業協会とセミナー  
(勉強会・意見交換会)を開催



令和6年 8月  
益田地域インフラ群再生戦略マネジメント  
推進会議  
広域的・多分野横断・  
包括的民間委託  
セミナー 開催(セミナー後、市場調査を実施)



令和6年10月  
益田地域インフラ群再生戦略  
マネジメント推進会議  
「技術力の群」  
セミナー 開催



# 4. これからのインフラメンテナンス 「群マネ」

令和6年 8月

益田地区測量設計業協会に市場調査

令和6年10月

益田地域インフラ群再生戦略マネジメント推進会議

令和6年12月

実施計画 策定

令和7年 7月

益田市・津和野町・吉賀町 連携協定 締結

令和7年 8月

サウンディング調査 実施

令和7年11月

入札告示中

令和7年12月

共同企業体と契約

## 群マネの実施方針(鳥根県益田市、津和野町、吉賀町)

[群マネモデル地域としてのポイント]

「戦略的インフラマネジメント」「広域的・複数・多分野横断・包括的民間委託」に関する水平連携事例

[実施内容]

### (1) 業務のマネジメント戦略

#### ① 対象範囲(インフラ分野×業務プロセス)

分野	日常的対応			計画的対応		
	直営	委託・工事	計画	点検	設計	工事
道路				橋梁点検	橋梁設計	
河川						
公園						
下水道						
その他				農林道点検	農林道設計	

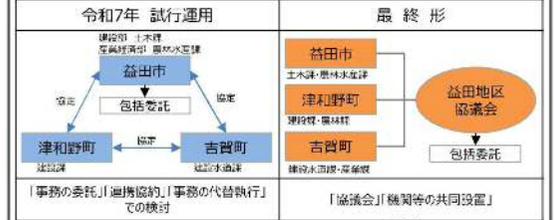
- R7年度(益田市、津和野町、吉賀町の1市2町)
- R8年度(益田市、津和野町、吉賀町の1市2町)

\*上記の補足 <インフラ分野>  
 \*道路:橋梁、トンネル(トンネルはR5に点検を実施)  
 \*その他分野:市道・町道・農道・林道  
 <業務プロセス>  
 \*アセットマネジメント(長寿命化修繕計画・個別施設計画更新)  
 橋梁点検、トンネル点検、橋梁修繕設計、トンネル修繕設計

#### ② 発注方式等

- 契約期間の複数年化:有(5年) (無)
- インセンティブの設計:有(性能規定、総価契約等) (無)
- その他特筆事項(令和7年度は単年、仕様規定を想定)

### (2) 自治体の束



- 地方自治法上の共同処理制度の適用:有・無(未定)
- 県技術センターとの連携:有(無)将来的には有(非直連携時に検討)  
 今後、益田市内部にて、「アセットマネジメント検討委員会(仮)」「群マネ推進WG(仮)」等を設立、展開していく。  
 また、現状にて具体的に検討していないが、益田地域である程度の成果があれば、鳥根県として水平連携・垂直連携を視野に入れるとのこと。その際には、鳥根県建設技術センターにも参加を依頼するとのこと。

### (3) 技術者連携、データ連携

- ① 技術者連携の具体メニュー  
 → 益田地区群マネ担当者会議(不定期開催)  
 益田地区インフラ群再生戦略マネジメント推進会議にてセミナーを開始
- ② データ連携の具体メニュー  
 → 現在、道路台帳の電子化について、3市町で同一システムの導入検討をしている。その際には、林業所管課(森林資源データ)との連携を含めて検討している。また、益田市では、検討しているシステムとAPI連携できるシステムにて市民要望「ますナビ」を既に導入している。(R5 デジ田)

R6.12.25時点の検討内容であり、今後の調整により変更となる可能性があります 8

# 4. これからのインフラメンテナンス 「群マネ」

## インフラマネジメントの時代転換



### インフラメンテナンス市区町村長会議 令和7年度 中国ブロック会議

日時：令和7年10月2日（木） 13：30～17：00  
場所：島根県芸術文化センター「クラトリ」小ホール  
(島根県益田市有明町5番15号)

入場無料

継続教育（CPD）対象  
(申請中)

#### <プログラム>

- 開会挨拶  
中国ブロック企画委員 益田市長 山本 浩章 氏
- 来賓挨拶  
国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長 森下 博之 氏  
国土交通省 中国地方整備局 中国地方整備局長 杉中 洋一 氏
- 基調講演  
国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長 森下 博之 氏  
松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 教授 大屋 誠 氏
- インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」 取組・活動紹介  
フォーラムリーダー 藤井 堅 氏 (広島大学名誉教授)
- 特別講演  
インフラメンテナンス国民会議 副会長 家田 仁 氏
- 意見発表  
企画委員 (総社市長、鳥取市長、周南市副市長、呉市副市長、益田市長)  
コーディネーター 公益社団法人土木学会中国支部 教授 西山 哲 氏 (岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域)
- 閉会挨拶  
中国ブロック企画委員 周南市副市長 遠藤 敏治 氏

#### 会場案内

#### お問合せ

インフラメンテナンス市区町村長会議 中国ブロック  
中国ブロック会議担当 益田市 建設部 土木課  
(担当：長谷川・大畑)  
電話：0956-31-0364

主催：インフラメンテナンス市区町村長会議 中国ブロック  
共催：公益社団法人 土木学会 中国支部  
後援：インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」 / 国土交通省中国地方整備局

## 4. これからのインフラメンテナンス 「群マネ」

発注者：益田市

受注者：高津川流域橋梁点検業務共同企業体

益田地区測量設計業協会 4社

業務数量：益田市・津和野町・吉賀町地内全域

市道・町道・林道の橋梁点検 68橋

スモールスタートにて着手、今年度末に完了予定

完了後は、来年度に向けて再度、サウンディング調査を予定

## 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ

八潮市における道路陥没事故を受けて、新たな提言がなされたところです。

下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会（第3次提言）

信頼されるインフラのためのマネジメントの戦略的転換

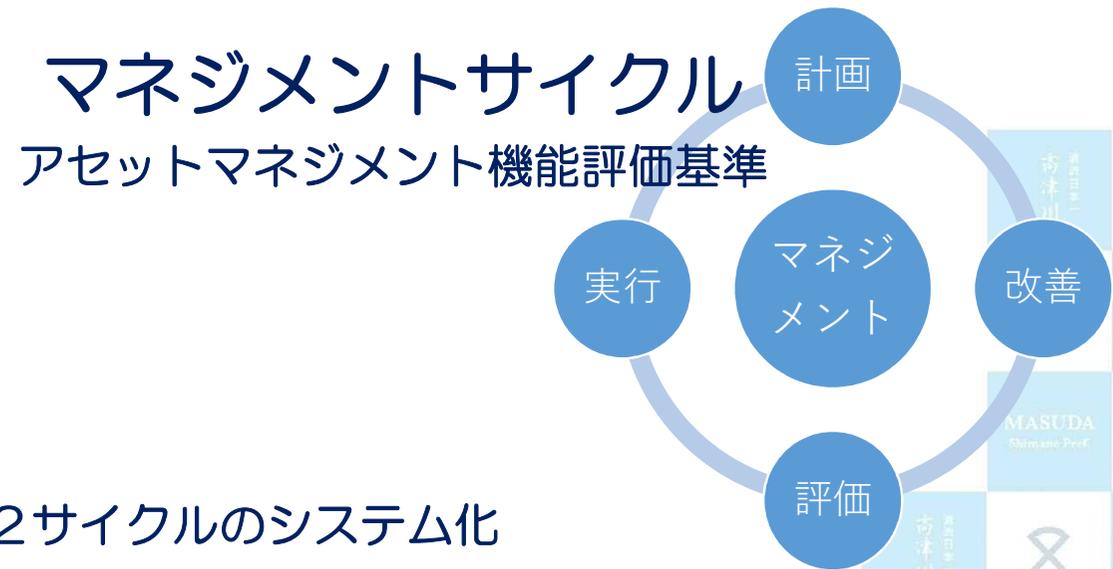
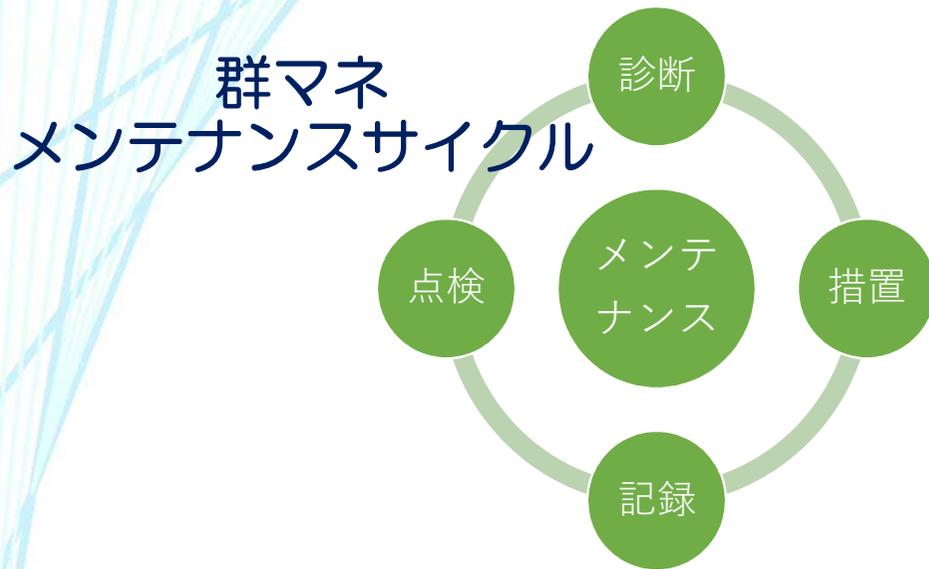
I：2つの『メリハリ』と2つの『見える化』による  
下水道管路マネジメントの転換

II：新たなインフラマネジメントに向けた5つの道すじ

令和7年12月1日

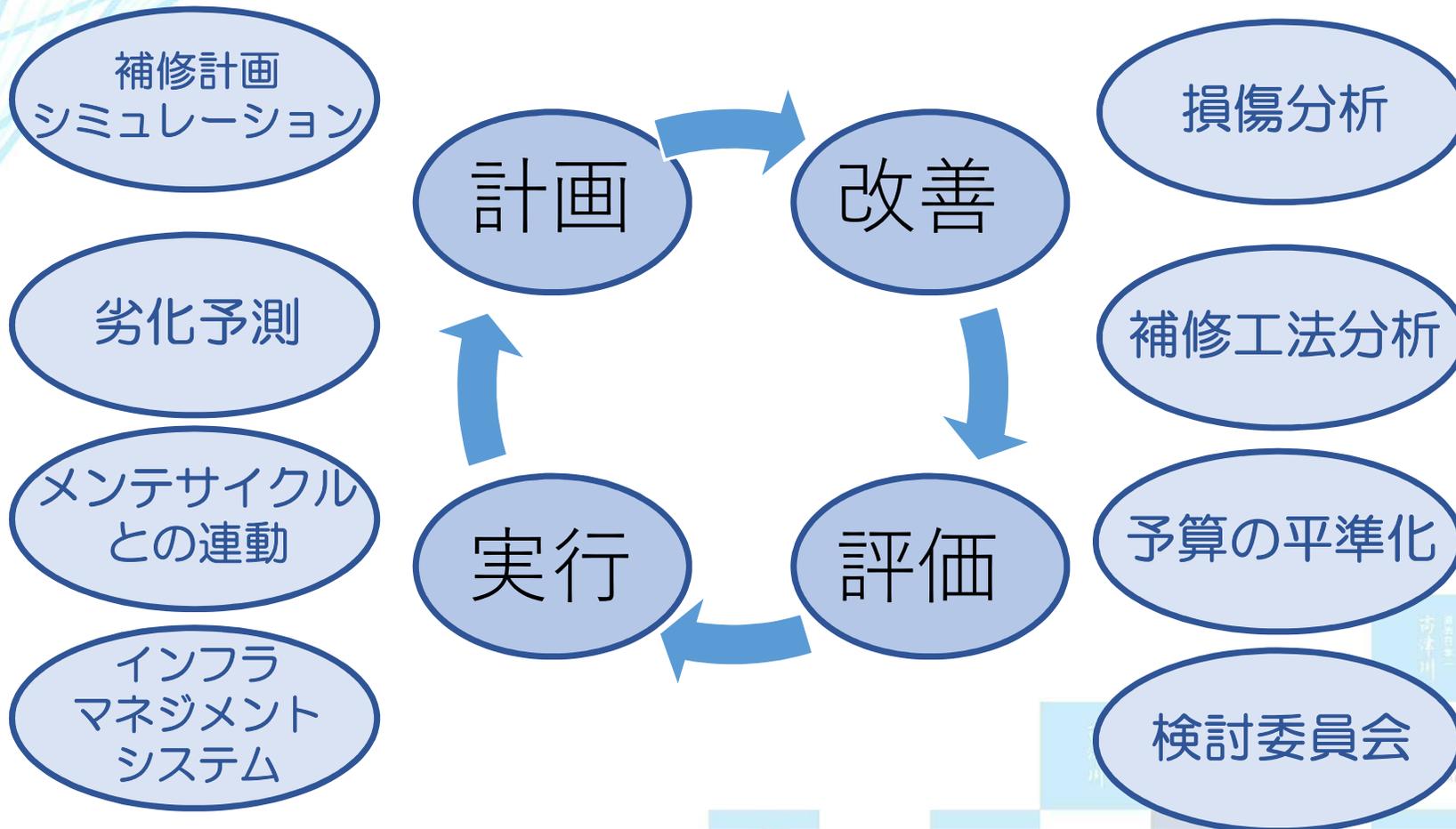
# 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ

## ○統合的『マネジメント』体制の構築



長寿命化修繕計画・個別施設計画の改定  
アセットマネジメント⇒効率化・高度化

# 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ



# 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ



## マルコフ理論を用いたミクロ分析による劣化シミュレーション研究を進める大阪大学と包括連携協定を締結

## 大阪大学の「サステイナブル・インフラ研究センター」では、スマートインフラの社会実装を推進

## 地域課題に対する理論的・技術的支援



大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA 益田市

Press Release 2025年11月4日

「インフラの老いを考え、地域社会の持続可能性を科学する」  
工学研究科サステイナブル・インフラ研究センターと  
島根県益田市との連携協定を締結しました

**概要**  
大阪大学大学院工学研究科に今年8月に設立されたサステイナブル・インフラ研究センターと島根県益田市は、包括的連携協定を10月27日(月)に締結いたしました。

この連携協定は、相互の知見や資源を活かして連携・協力することにより、サステイナブル・インフラ研究センターにおける研究成果の社会実装と教育研究の発進および益田市におけるインフラマネジメントに関する施策の高度化を図り、もって地域社会の発展に寄与することを目的とするものです。10月27日(月)に大阪大学にて連携協定調印締結式を開催し、連携協定による目的達成を目指した取り組みについて協議いたしました。

この取り組みは、益田市建設部土木課によるインフラ維持管理業務に関する実務的知見やデータの提供と、大阪大学大学院工学研究科サステイナブル・インフラ研究センターによるインフラの劣化予測等の活用方法に関する学術的知見や分析結果の提供を中心に構成されています。

本連携協定をもって益田市における地域・暮らしの安全・安心、災害対策や産業・経済の振興、地域雇用の創出に関することなど、包括的なまちづくりの活性化を相互に連携して取り組みます。



連携協定調印締結式の様子

**サステイナブル・インフラ研究センターについて**  
サステイナブル・インフラ研究センターは、2025年8月、大阪大学大学院工学研究科に設立された研究拠点です。インフラの老朽化、気候変動リスク、自然災害の激甚化・頻発化といった社会的課題に対して、学術研究に基づく新たな知見や技術を創出し、公共性と学術性を兼ね備えた活動を通じてサステイナブルでレジリエントな社会の実現に貢献することを使命として、研究成果の社会実装に取り組みます。

**協定締結の背景**  
益田市では、人口減少・少子高齢化・インフラ老朽化という三重の課題に直面しています。特に、道路・橋梁・農道・林道といった多種多様な施設群の維持管理において、従来の施設単位発注・管理から、地域・施設分野を束ねた「群マネ」アプローチへと転換を図っています。

また、近年、専攻の大学・研究機関との協定を積極的に進め、地域課題の解決に学術的知見を取り入れながら、地域の持続的発展を目指す「開かれた自治体」としても注目されています。

## 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ

### 締結式の開催

本覚書の締結にあたり、10月27日(月)大阪大学吹田キャンパス大学院工学研究科において、締結式を行いました。当日は大阪大学大学院工学研究科 大政 健史(おおまさ たけし)研究科長と、サステイナブル・インフラ研究センター 貝戸 清之(かいと きよゆき)センター長、益田市 山本 浩章(やまもと ひろあき)市長より、今回の締結にあたってのコミットメントが示されるとともに、今後の連携・協力に向けた意見交換を行いました。



左:工・貝戸センター長からの協定趣旨説明、中央:益田市・齋藤晃信建設部長からの事業説明、右:調印の様子



# 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ

## ○2つの『見える化』の徹底

地域の将来像

≠

地域の現実

地域の抱える課題

エビデンスのある解決方法

# 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ

大阪大学大学院工学研究科  
サステイナブル・インフラ研究センター

## 高津川流域データ連携基盤

益田市フィールド提供  
(市の保有する基礎データ)

カヤバ株式会社  
基盤技術研究所 情報技術研究室

八千代エンジニアリング株式会社  
技術管理本部 DX推進室

# 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ

地域課題：インフラの老朽化、公共交通、地域振興、教育 等

新たな社会の基礎となる  
「未来インフラ」

安全・安心  
快適な暮らし

持続可能な  
地域社会

well-being

住み続けたい  
実感できる地域

一人一人の多様な幸せな社会

# 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ

予防保全型への転換 そして、Society 5.0へ

Society 5.0

スマートインフラマネジメント

戦略的イノベーション創造プログラム

2030

マネジメント  
サイクル

社会実装

2025

群マネ・広域連携

メンテナンス  
サイクル

アセット  
マネジメント  
予防保全型

2028

## 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ ○改革推進のための『モーメントム』

「人の群マネ」

⇒ 令和8年5月14日 @東京  
インフラメンテナンス市区町村長会議 全国大会

令和8年10月8日 @周南市  
インフラメンテナンス市区町村長会議  
中国ブロック会議 総会

※土木学会と協定締結しています。

## 5. 今後の展望 メンテナンスからマネジメントへ

- ▶ ご清聴ありがとうございました。
- ▶ お問い合わせは、益田市 建設部 土木課まで  
よろしくお願いいたします。

益田市 建設部 土木課

〒698-8650

住所: 島根県益田市常盤町1番1号

TEL: 0856-31-0363 FAX: 0856-22-2299

Mail: [doboku@city.masuda.lg.jp](mailto:doboku@city.masuda.lg.jp)

